

他社製整腸剤との免疫活性比較試験

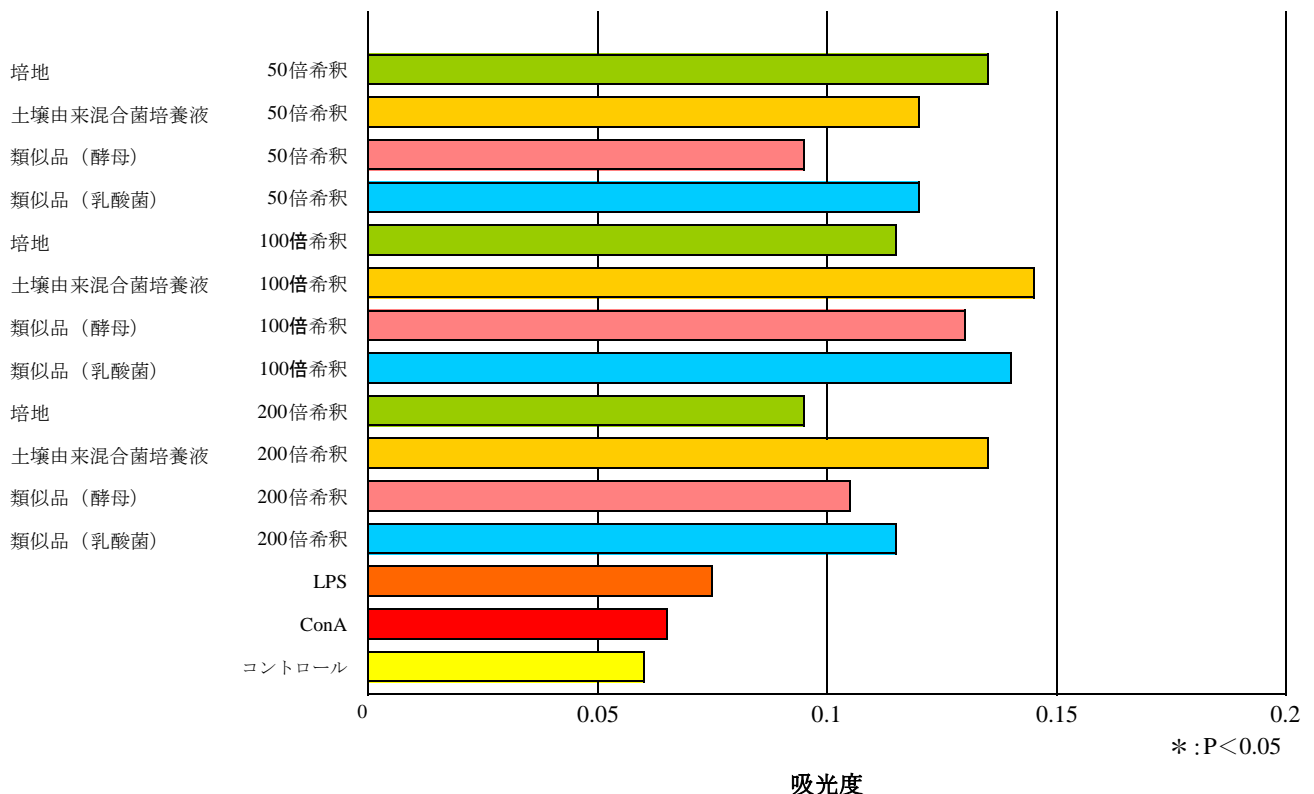
<試験方法と内容>

土壌由来混合菌培養液の免疫活性を調査するため、マウスのマクロファージ細胞（J774.1）を用い、培地、土壌由来混合菌培養液、乳酸菌又は酵母菌を原材料とした類似する2つの商品、免疫細胞を刺激する物質である ConA（コンカナバリン A）及び LPS（リポポリサッカライド）を添加した場合の吸光度（450nm）を測定した。

<結果>

LPS を添加した場合は、コントロールに比べ免疫応答が有意（ $p < 0.05$ ）に上昇した。また培地、土壌由来混合菌培養液、類似品（酵母）、類似品（乳酸菌）を添加した場合も、免疫応答の上昇がみられた。更に類似品（酵母）に比べ 50 倍希釈における培地、土壌由来混合菌培養液、類似品（乳酸菌）で免疫応答が有意（ $p < 0.05$ ）に上昇した。しかし、類似品（乳酸菌）との比較では、どのサンプルにおいても免疫応答に有意な上昇はみられなかった。このことから、類似品（酵母）との比較において 50 倍に希釈した培養液を用いた場合、マウスのマクロファージ細胞（J774.1）に対して、免疫応答を有意に上昇させることが明らかとなった。

マウスのマクロファージ細胞（J774.1）を用いた免疫活性試験（6時間後の結果）



神戸医療機器開発センター当社研究所にて調査

注 1) LPS（リポポリサッカライド） グラム陰性菌細胞壁外膜の構成成分

注 2) ConA ナタマメの含有成分、リンパ球分裂促進活性を有する。